

# 大阪 あちこち

## ●下赤阪城跡

下赤阪城は、大阪府の東南部にある金剛山の麓、千早赤阪村にある中世の城です。この城は、鎌倉時代の末から南北朝時代にかけて活躍した楠木正成によって築られました。現在、村立中学校の裏手にある「赤坂城趾」の碑の建っている一帯が城でした。



赤坂城趾の碑

1331年、後醍醐天皇は再度の鎌倉幕府倒幕計画が発覚し身に危険が迫ったため、京都から笠置山へ逃れました。正成は、笠置がもし危なくなれば、ここに天皇を迎えようとして急いで下赤阪城を築きました。

しかし、笠置の城は落ち、後醍醐天皇は幕府に捕らえられてしまいました。幕府は、勢いに乗じて下赤阪城へ攻め寄せました。この城は急いで築いた「にわかづくり」の城でしたが、正成は奇策を用いて戦いました。二重堀・大木や大石を転がすなどの戦いぶりは『太平記』に詳しく書かれています。短期間の籠城の後、城に火を懸けて金剛山中へ隠れました。

1332年、正成は下赤阪城にいた幕府軍の湯浅定仏を奇襲、城を奪い返しました。この城は、幕府軍の攻撃のためふたたび落城しましたが、



下赤阪の棚田

有名な千早城の百日間の籠城の間に、鎌倉幕府は滅亡しました。そして、建武中興となり、南北朝時代へと移って行きます。

今年5月に、本村を訪れた橋下大阪府知事が「すばらしい。この風景は日本そのもの。内外にPRしたい」と語られた「下赤阪の棚田」は、この碑の西側一帯で、「太平記」にも書かれています。



下赤阪城跡から見た棚田と遠景



## ▼お問い合わせ先▼

千早赤阪村秘書政策課

TEL 0721-72-0081